

在日朝鮮人の「帰国」政策

一九四五年（一九四六年）

● A5判・上製・函入

● 定価：本体四、〇〇〇円+税
ISBN978-4-89774-632-5 03021 *4000E

本書は先行研究をふまえ、終戦直後の在日朝鮮人の「帰国事業」を、送出側の日本政府・GHQ等の帰国援護政策・実態と受入側の南朝鮮の米軍政庁等の援護体制について総合的に検討したものである。第一章では、朝鮮人の労働者、軍人・軍属、「一般人」の帰国者数と日本政府の帰国援護政策を検討する。終戦直後から翌年末までに約一四〇万人の朝鮮人が帰国した。その内の約九割が四年三月までの短期間で大量に帰国した。混沌としたこの状況にどう対応したのか。第二章では日本政府及びGHQの帰国援護体制の形成過程を検証する。第三・四章では、中央の援護体制に対応し、送出港を持つ自治体、ここでは山口県の下関・仙崎と福岡県の博多での援護活動を考察する。第五章では京都府の舞鶴と長崎県の佐世保での帰国業務の実態を明らかにする。第六章では在日朝鮮人が最も多い大阪からの帰国実施過程を考察する。第七章では南朝鮮側の帰国者受入体制の政策と実状を明らかにする。第八章では日本における再渡航者の帰国対策について考察する。日本政府が朝鮮の植民地支配及び戦時の強制労働動員、兵役動員に対する責任を果たすための戦後最初の政策であつた朝鮮人の「帰国事業」の問題点を探る。

内容〔抜粋〕

第一章 終戦直後の帰国者数と日本政府の政策

一 帰国者数

二 終戦に伴う日本政府の政策と対応

三 帰国の選択——労働者、軍人・軍属、「一般人」の帰国と残留——

第二章 帰国援護体制の形成

一 日本政府による援護体制

二 GHQと日本政府の政策

三 「厚生省地方引揚援護局」の設置と「帰国援護事業」の展開

第四章 下関・仙崎港周辺の状況と山口県の対応

一 終戦直後の下関と仙崎港付近の状況

二 山口県内在住朝鮮人の状況と山口県の対応

三 山口県の朝鮮人帰国者への援護活動

四 下関と仙崎における朝鮮人団体の援護活動

第五章 博多港周辺の状況

一 博多港における軍人・軍属の帰国

二 労働者と「一般人」の帰国

三 福岡県在住朝鮮人と「民生課」の対応

一 舞鶴における援護体制

二 崔碩義氏による証言

三 佐世保における援護体制

第六章 大阪における朝鮮人の帰国

一 終戦前後の大阪府の状況

二 大阪府における帰国希望登録調査による「計画輸送」の開始

三 大阪府による再渡航者対策

四 外事局による朝鮮人帰国者の援護活動

渡航者対策

一 朝鮮米軍進駐以前の南朝鮮における帰国者受入状況

二 朝鮮米軍政庁帰國者受入担当部署と外事局設立に至る経緯

三 海上における日本政府とGHQによる朝鮮人再渡航者対策

四 朝連報告書による再渡航者の状況

年表 日本政府とGHQの帰国政策を中心